

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	小貝川ふれあい公園管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化	都市整備課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを								公園街路係

1. 事業の概要(Plan)

目的	公園利用者が安全で快適に公園施設を利用できるよう、適正に運営・維持管理を行う				
内容	公園の維持管理業務及び指定管理者の監督、市民団体との連携、河川法に基づく工作物の設置許可申請事務				
種別	自治事務(任意)	主体	指定管理	対象・受益者	市民、公園利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園巡回回数	適切な維持管理の実施確認のため、週1回程度の巡回を実施する	目標	52	52	52	回
		実績	52	52			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園利用者数	公園利用者数	目標				人
		実績	434,973	470,405			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	68,702	59,367	62,225	60,444	60,444	60,444		
事業経費	63,838	55,752	58,610	56,829	56,829	56,829		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.64	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40		
従事非常勤職員数		0.25	0.25	0.25	0.25	0.25		
概算人件費	4,864	3,615	3,615	3,615	3,615	3,615		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市内唯一の総合公園であり目的を達成している
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	行政上の専門知識は必要
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目的を達成できている	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	全てを指定管理方式で実施できるかを検討する	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	指定管理を実施しているが、範囲が公園の一部であるため管理が難しくなっている部分もある
今後の取組み	指定管理エリアについて、管理期間終了後は直営とするが、直営期間終了までに、公園全体での管理者の選定方法及び運営方式を検討する

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	砂沼広域公園管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を						公園街路係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	公園利用者が安全で快適に公園施設を利用できるよう、適正に運営・維持管理を行う				
内容	県営公園である砂沼広域公園のうち、水生植物ゾーン(観桜苑・砂沼庵)及び遊歩道ゾーンの維持管理を行う				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	市民、公園利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園巡回の回数	職員及び管理委託業者による巡回回数	目標	312	312	312	回
		実績	308	298			

成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園事故発生件数	公園における事故等の発生件数	目標	0	0	0	件
		実績	0	0			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	33,638	35,846	38,314	38,853	38,853	38,853		
事業経費	30,066	32,274	34,742	35,281	35,281	35,281		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	3,572	3,572	3,572	3,572	3,572	3,572		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	茨城県から下妻市が管理許可を受けて管理している
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地あり	県営公園であり県と連携し施設更新などを実施し管理費を削減
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性	妥当	県の管理許可として一般的	
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公園の維持管理については、現在委託業務として発注しているが、費用の関係から特に砂沼遊歩道の高木の管理に行き届かず、荒天後に倒木や落枝が多い状況である。
今後の取組み	老朽化した公園施設の更新や改築については、公園設置者である茨城県に継続的に要望していく。樹木の剪定等については、もう一度現在の管理方法を確認し、長期的に適正な管理ができるように維持管理方針を再考する。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	水辺の楽校維持管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	4	生活、環境	基本	4	自然、環境	分野	1	自然、環境	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を						公園街路係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	自然と出会う安全な水辺環境を維持管理することにより、自然と親しむ環境づくり及び河川の美化を推進する				
内容	環境に密着した団体や住民の河川環境保護・美化活動の輪を広げ、住民参加による河川の美化運動を推進する				
種別	自治事務(任意)	主体	外部委託	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	除草回数	ボランティア団体により除草回数	目標	6	6	6	回
			実績	6	6		
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	イベントの実施回数	水辺の楽校(鬼怒フラワーライン)で企画される地域交流イベントの実施回数	目標	4	4	4	回
			実績	2	3		

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費
------	----	------	---	-------	---	---------	---	---------

事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額
総事業費	3,755	3,916	3,888	4,100	4,100	4,100
事業経費	1,701	1,862	1,834	2,046	2,046	2,046
特定財源	0	0	0	0	0	0
従事常勤職員数	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24
従事非常勤職員数	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
概算人件費	2,054	2,054	2,054	2,054	2,054	2,054

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民参加活動から河川への愛着が生まれ河川美化にもつながる
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	国・市・団体がアダプトプログラムの協定に基づき管理を実施
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	感染症等の影響によりイベントの中止もあったが、除草作業は目標回数実施した
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	市民との協働による管理が実践されているため	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	ボランティア団体が高齢化しており、次世代へのシフトチェンジが進んでいない。河川の美化に参加する市民をいかに増加させるかが課題であるが、右岸の自然観察ゾーンについては、自然をできるだけ残す管理手法をとっていることから、一般の来場者は少ない。
今後の取組み	委託制度の充実とともにボランティア団体の活動の継続や活性化を促し、より多くの方々が川と親しむ憩いの場となるよう積極的な利用の促進に努める。水辺の楽校を活用した自然観察の機会が減少傾向となっており、施設の利用頻度の面でも課題があり、今後検討が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	やすらぎの里公園管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化	都市整備課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを								公園街路係

1. 事業の概要(Plan)

目的	都市再生整備計画(蚕飼地区)に基づく地域活性化の交流拠点となるよう適正な維持管理を実施する				
内容	植栽・遊具の維持管理業務委託の監督。市民団体との連携				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民、公園利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園巡回	適切な維持管理の実施確認のため、週1回程度の巡回を実施する	目標	52	52	52	回
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	ふるさと交流館リフレこかいの利用者数	ふるさと交流館リフレこかいの利用者数	目標				人
実績			3,948	4,783			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費	
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額			
総事業費	19,326	25,376	25,381	27,155	27,155	27,155			
事業経費	18,110	19,646	19,651	21,425	21,425	21,425			
特定財源	0	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	0.16	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30			
従事非常勤職員数		1.50	1.50	1.50	1.50	1.50			
概算人件費	1,216	5,730	5,730	5,730	5,730	5,730			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市内唯一の近隣公園であり目的を達成している
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	行政上の専門知識は必要
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成している	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	年間管理業務としての発注を目指す	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	貸館事業を行うにあたり、管理人が1人しかいないため(嘱託1名、臨職1名)、支障がでる場合がある。市防災計画において、避難所となっているが、インターネット設備等が無い(事務連絡においても電話・FAXのみのため、支障有り)
今後の取組み	インターネット設備等の設置が自主事業の拡充、広報の強化になり利用者の増加につながると考えられる

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	街区公園管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化	都市整備課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを								公園街路係

1. 事業の概要(Plan)

目的	近隣住民が、安全・安心に利用し、憩いを得る場となるよう適正な維持管理を行う。				
内容	街区公園(多賀谷、上町、三道地、陣屋、本宿、千代川緑地、東部中央等の9公園)の植栽を含む公園施設の維持管理				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民、公園利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	公園巡回の回数	職員による年間の公園巡回件数	目標	40	40	40	回	
		実績	40	40				
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	公園への苦情件数	市民等から寄せられる公園に関する苦情の件数	目標	0	0	0	件	
		実績	0	0				
予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予算額	R6予算額		
総事業費	16,742	20,331	22,118	20,314	20,314	20,314		
事業経費	13,322	17,423	19,210	17,406	17,406	17,406		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.45	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31		
従事非常勤職員数		0.24	0.24	0.24	0.24	0.24		
概算人件費	3,420	2,908	2,908	2,908	2,908	2,908		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	近隣住民の憩いの場となっている
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	行政上の専門知識は必要
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた
		効率性	コストの削減	削減の余地なし
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標を達成している
	手段の妥当性	見直しの余地あり		年間管理業務としての発注を目指す
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	街区公園の維持管理については、除草作業が主であり、植栽は軽剪定が主である、経年とともに樹木等はこみ合ってきており、景観及び維持管理コストの観点から間引きが必要な状態である、また除草に関しては、本来は年間管理委託であることが望ましいが、経費節減のため、年3回分の個別発注となっている
今後の取組み	利用率の低い都市公園に関しては、施設や植栽を必要最低限まで減らす必要があると考えられる、また景観・安全・防犯を鑑み、こみ合っている樹木の間引き及び公園内の低木等の死角を無くすことを検討する必要がある

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

建設部
都市整備課
公園街路係

事務事業名	団体事務事業								
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを							

1. 事業の概要(Plan)

目的	公園・河川区域・花壇等を管理する団体の運営を円滑にすることにより、利用者が快適に公園等を利用できるようにする				
内容	団体の事務局として、各団体(小貝川ふれあい花の会・花と一万人の会・花のまち推進ボランティアクラブ等)の事務を行う				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	ボランティア活動回数	各ボランティア団体のボランティア活動、会議および研修視察等の回数	目標	42	42	42	回
		実績	44	39			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	イベント等の開催回数	各団体が主催となって公園および河川区域で開催されるイベントの回数	目標	3	3	3	回
		実績	2	3			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費	
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額			
総事業費	12,864	12,225	12,225	12,225	12,225	12,225			
事業経費	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200			
特定財源	0	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	1.14	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95			
従事非常勤職員数		0.35	0.35	0.35	0.35	0.35			
概算人件費	8,664	8,025	8,025	8,025	8,025	8,025			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	公園・河川区域・花壇等は、市民の憩いの場として重要
		対象の適切性	適切	これらの場所で活動する各団体を支援することは必要
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	将来的には、各団体での事務局運営の検討が必要
	有効性	指標の実績	達成できた	おおむね予定通りの活動をする事ができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状からの削減は困難
総合評価	費用対効果	効果あり	現在の活動内容を従前の経費で業者委託することは困難	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	将来的には、各団体での事務局運営の検討が必要	
	事業の方針	継続	市民参加の活動の場として継続が必要	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	団体によっては会員の高齢化が進んでおり、若い世代の勧誘が必要である。また、活動が活発でなくなっている団体もあり、団体の活性化が求められる
今後の取組み	高齢化が進んでいる団体については、若い世代の勧誘の検討が必要 活動が活発でなくなっている団体については、活動の内容そのものを見直しの検討が必要

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	公園遊具等点検事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を						公園街路係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	公園施設の「ハザード(不備)」を無くし、安全安心な公園施設を利用者に提供する				
内容	規準に基く専門業者による点検及び職員による日常点検を行う				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	市民、公園利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	日常点検・定期点検の回数	日常(市職員による)点検(月1回)及び、定期(専門業者)点検(年1回)の回数	目標	13	13	13	回
		実績	13	13			

成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	遊具による事故発生件数	遊具による事故発生件数	目標	0	0	0	回
		実績	0	0			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	2,402	2,492	2,644	2,558	2,558	2,558		
事業経費	691	781	933	847	847	847		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21		
従事非常勤職員数	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05		
概算人件費	1,711	1,711	1,711	1,711	1,711	1,711		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	行政上の専門知識は必要
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費である
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性	妥当		公園の年間管理事業と連携の可能性あり
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市職員による日常点検は、遊具点検に関する知識が必要であるため、これを習得する研修の参加が必要である。また、遊具は点検結果により修繕又は更新を計画する必要がある。
今後の取組み	国・県等で開催する研修会等に積極的に参加し、職員の遊具に関する知識を高めていく。また、遊具の修繕計画を立てて、数年先を見越して遊具を管理できるような体制を整える。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	砂沼広域公園管理事業(指定管理許可区域)						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	4	公園、緑化	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を						公園街路係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	公園利用者が安全で快適に公園施設を利用できるよう、適正に運営・維持管理を行う					
内容	県営公園である砂沼広域公園のうち、指定管理区域(プールゾーン公園部)の維持管理を行う					
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	市民、公園利用者	

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園巡回の回数	職員及び管理委託業者による巡回回数	目標	356	351	351	回
		実績	351	351			

成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	公園事故発生件数	公園における事故等の発生件数	目標	0	0	0	回
		実績	0	0			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	4 都市公園費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	41,826	41,871	45,106	47,201	47,201	47,201		
事業経費	38,406	38,451	41,686	43,781	43,781	43,781		
特定財源	27,089	27,339	27,339	27,339	27,339	27,339		
従事常勤職員数	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	3,420	3,420	3,420	3,420	3,420	3,420		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	
		対象の適切性	
		主体の妥当性	アウトソーシング可能
	有効性	指標の実績	
	効率性	コストの削減	削減の余地あり

総合評価	費用対効果		
	手段の妥当性	見直しの余地あり	指定管理事業を下妻市が受託する必要性の検討
	事業の方針		

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	砂沼広域公園は、本事業の他、県管理許可による水生植物ゾーン(観桜苑・砂沼庵)及び遊歩道ゾーンの維持管理業務を受託し、平成21～30年度、砂沼サンビーチを直営で運営していた。事業の手法等については、今後の県の方針や動向に左右されるが、平成30年度で砂沼サンビーチの運営が終了したことから、見直し及び検討の余地がある。
今後の取組み	砂沼サンビーチが県開発公社から譲渡された経緯から指定管理として下妻市が受けることとなったが、県予算の関係で指定管理料が十分ではなく、満足な管理が難しくなっている、平成30年度で砂沼サンビーチの運営が終了したことから、現在の指定期間(H31～R5)終了後、指定管理を受託するかどうかを改めて検討する必要がある。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	都市計画法に基づく事務						建設部	
総合計画の体系	目標 5	都市基盤	基本 1	都市計画、整備	分野 2	都市計画	都市整備課	
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						都市計画係

1. 事業の概要(Plan)

目的	都市計画法に基づく都市的土地利用の誘導					
内容	法に基づく都市計画行政の推進、法第53条等許認可関係の事務					
種別	法定受託事務	主体	直営	対象・受益者	市民	

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度			単位
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	
成果指標						

予算科目	区分	一般会計	款 8 土木費	項 4 都市計画費	目 1 都市計画総務費		
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額	
総事業費	10,870	15,676	7,149	7,264	7,264	7,264	
事業経費	3,200	7,716	689	804	804	804	
特定財源	830	1,500					
従事常勤職員数	0.90	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	
従事非常勤職員数							
概算人件費	6,840	6,460	6,460	6,460	6,460	6,460	

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性	妥当	法定受託事務のため	
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	厳しい財政状況の中、都市計画決定している都市計画施設(都市計画道路等)の事業化の見通しが立てられない。また、計画決定から50年以上経過している路線もあり、社会情勢の変化を踏まえるとその必要性に変化が生じ実態にそぐわないものも存在する。
今後の取組み	都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画との整合を図り、社会情勢の変化に対応しうる持続可能なまちづくりを推進する。令和元年度より街路交通調査補助金を活用し、都市計画道路の見直しを実施している。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	都市計画法に基づく事務						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	2	都市計画	都市整備課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						都市計画係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	都市計画法に基づく都市的土地利用の誘導				
内容	法に基づく都市計画行政の推進、法第53条等許認可関係の事務				
種別	法定受託事務	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度			単位
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	
成果指標						

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	1 都市計画総務費				
事業費(千円)	R1決算額		R2決算額		R3決算額		R4予算額		R5予定額		R6予定額	
総事業費	10,870		15,676		7,149		7,264		7,264		7,264	
事業経費	3,200		7,716		689		804		804		804	
特定財源	830		1,500									
従事常勤職員数	0.90		0.85		0.85		0.85		0.85		0.85	
従事非常勤職員数												
概算人件費	6,840		6,460		6,460		6,460		6,460		6,460	

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性		妥当	法定受託事務のため
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	厳しい財政状況の中、都市計画決定している都市計画施設(都市計画道路等)の事業化の見通しが立てられない。また、計画決定から50年以上経過している路線もあり、社会情勢の変化を踏まえるとその必要性に変化が生じ実態にそぐわないものも存在する。
今後の取組み	都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画との整合を図り、社会情勢の変化に対応しうる持続可能なまちづくりを推進する。令和元年度より街路交通調査補助金を活用し、都市計画道路の見直しを実施している。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	コミュニティサイクル事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	3	市街地	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を		11	住み続けられるまちづくりを		12	つくる責任つかう責任		都市計画係

1. 事業の概要(Plan)

目的	コミュニティサイクルを運行し街なかの回遊性向上と消費拡大を図る				
内容	コミュニティサイクル「しもんチャリ」の運営・管理				
種別	自治事務(任意)	主体	一部委託	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	稼働回数の向上	しもんチャリの稼働回数を向上させる。	目標	20,000	20,000	20,000	
		実績	20,236	25,231			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	稼働率の向上	しもんチャリの稼働率を向上させる。	目標	200	200	200	
		実績	195	183			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	5 自転車・ムシもつ管理費				
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予定額	R6	予定額
総事業費		7,943		5,417		5,635		6,163		6,163		6,163
事業経費		5,663		1,845		2,063		2,591		2,591		2,591
特定財源		4,543		0		0		0		0		0
従事常勤職員数		0.30		0.47		0.47		0.47		0.47		0.47
従事非常勤職員数												
概算人件費		2,280		3,572		3,572		3,572		3,572		3,572

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	稼働回数、稼働率が高水準で推移している
		対象の適切性	改善の余地あり	街なかの消費拡大に繋がることが望ましい
		主体の妥当性	アウトソーシング済(一部)	協議会形式で商工・観光部門と連携している事例が多い
	有効性	指標の実績	達成できた	
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	街なかの賑いを演出している	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	消費拡大に繋がる運営体制が必要	
	事業の方針	継続	改善を図りながら継続	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	高校生から大人まで幅広く使われている様子が見受けられるが、街なかの消費拡大に効果的に寄与しているかは疑問。協賛等による運営費の一部補填や、商店街等と連携した事業が展開できるかが課題である。
今後の取組み	運行管理システム導入、及び自転車へのGPS設置により、ポートの利用可能台数、運行状況の把握が可能になったため、長期占有、放置の防止を図る。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	屋外広告物業務						建設部	
総合計画の体系	目標 5	都市基盤	基本 2	社会基盤	分野 2	景観、住環境	都市整備課	
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						都市計画係

1. 事業の概要(Plan)

目的	屋外広告物法及び県条例に基づき、良好な景観形成、風致維持、公衆に対する危害防止を図る。					
内容	県条例に基づく屋外広告物の許可及び違反広告物の除去を行う。					
種別	法定受託事務	主体	直営	対象・受益者	市民	

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明			年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
成果指標									
予算科目	区分	一般会計	款 8 土木費	項 4 都市計画費	目 1 都市計画総務費				
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額			
総事業費	1,520	3,572	3,572	3,572	3,572	3,572		3,572	
事業経費									
特定財源									
従事常勤職員数	0.20	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47		0.47	
従事非常勤職員数									
概算人件費	1,520	3,572	3,572	3,572	3,572	3,572		3,572	

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	法律に基く規制を行うため
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性	妥当	法定受託事務のため	
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	許可申請が必要でありながら無許可で表示している屋外広告物が存在する。また許可基準に適合しない違反広告物も見受けられる。
今後の取組み	屋外広告物条例を広く周知し、屋外広告物の表示には原則許可が必要であることを事業者にも認知してもらう。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	Waiwaiドームしもつま事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	3	市街地	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を	11	住み続けられるまちづくりを	12	つくる責任つかう責任	都市計画係			

1. 事業の概要(Plan)

目的	Waiwaiドームしもつまの有効活用を図り、まちなかのにぎわい創出とエリアの価値向上に寄与する				
内容	Waiwaiドームしもつまの適切な管理・運営				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	イベント開催回数	自主事業及び民間主導のイベント開催回数	目標	48	48	48	回
		実績	12	13			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	年間利用者数	施設の年間利用者数(まちひとしごと総合戦略KPI)	目標	100,000	100,000	100,000	%
		実績	41,442	34,123			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	5 Waiwaiドームしもつま管理費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	23,166	24,740	23,074	21,286	22,302	22,302		
事業経費	18,291	14,438	12,772	10,984	12,000	12,000		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.75	0.72	0.72	0.72	0.72	0.72		
従事非常勤職員数		2.10	2.10	2.10	2.10	2.10		
概算人件費	4,875	10,302	10,302	10,302	10,302	10,302		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	にぎわいのまちづくりの効果が始めている
		対象の適切性	改善の余地あり	指定管理による管理など効果促進を図る必要がある
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	民間活用により施設の有効活用を図れる可能性が高い
	有効性	指標の実績	達成できなかった	周知、PRが不十分、コロナによる閉鎖の影響あり
総合評価	効率性	コストの削減	削減の余地あり	税外収入により歳入を増やせる可能性あり
	費用対効果	効果あり	周辺エリアに民間投資が追隨している	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	民間活用による質の向上	
事業の方針	継続	にぎわりからエリアの価値向上へ		

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	直営管理のため、自主事業の質・量とも展開が不十分である。施設の認知度および利用者を増やすため、市の事業だけでなく、民間主催のイベント利用を図る必要がある。
今後の取組み	地方再生コンパクトシティモデル事業にて、施設の管理体制のあり方やスポーツを一つの手段としたストック効果促進策を実施し、ハード・ソフトとも材料は揃ったため、(1)事業についての評価の通り、民間活用を取り入れて賑わい創出からエリアへの波及を実現する。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	公民連携事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	3	市街地	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を	11	住み続けられるまちづくりを	12	つくる責任つかう責任	都市計画係			

1. 事業の概要(Plan)

目的	立地適正化計画にもとづくコンパクトシティの形成を実現する公民連携事業を展開する				
内容	地域資源や既存ストックを活用し、新しい下妻暮らし創出や地域経済循環に寄与する民間主導・行政支援の取組み				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	砂沼戦略プラットフォーム参画者数	砂沼戦略プラットフォームに参画するステイクホルダーの数	目標	-	30	40	回	
		実績	-	33				
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	下妻駅の利用者数	下妻駅の年間利用者数	目標	622,000	622,000		%	
		実績	477,247	533,712				
予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	6 地方再生モデル事業費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費			22,442	8,410				
事業経費			14,842	810				
特定財源								
従事常勤職員数			1.00	1.00				
従事非常勤職員数								
概算人件費			7,600	7,600	0	0		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	民間主導のまちづくりの機運が高まっている
		対象の適切性	改善の余地あり	ファイナンスによるまちづくりの基盤を整える必要がある
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	行政に依存しない民間主体による取り組みとすべき
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	活動指標は達成したが、コロナ禍もあり成果指標が限定的だった。
効率性	コストの削減	削減の余地あり	人材育成が必要であり、内製力がある人材が育てばコスト削減につながる。	
	総合評価	費用対効果	効果あり	費用に見合う効果が出ている
手段の妥当性		妥当	他の手段では、都市経営課題を解決する事業を推進できない	
事業の方針		継続	更なるプレーヤーの発掘・育成を続け、稼ぐまちづくりを加速させていく	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公共・民間とも、民間主導の公民連携を推進するためのスキルや知識が十分ではないため、人材育成・発掘に注力する必要がある。
今後の取組み	砂沼戦略の推進のため、人材育成・発掘や機運醸成を図り継続していく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	地方再生コンパクトシティモデル事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	1	都市計画、整備	分野	3	市街地	都市整備課
SDGs目標	3	すべての人に健康と福祉を	11	住み続けられるまちづくりを	12	つくる責任つかう責任	都市計画係			

1. 事業の概要(Plan)

目的	立地適正化計画にもとづくコンパクトシティの形成を図る				
内容	地域資源や既存ストックを活用し、スポーツ環境デザインとプレイスメイキングにより、エリアの魅力向上と交流人口拡大を図る				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	市民共創	まちのにぎわいを共創する、イベント、ワークショップ、社会実験等の開催	目標	4	4		回	
		実績	4	4				
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	下妻駅の利用者数	下妻駅の年間利用者数	目標	622,000	622,000		%	
		実績	477,247	533,712				
予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	4 都市計画費	目	6 地方再生モデル事業費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	58,915	98,590	111,037					
事業経費	53,390	93,065	104,577					
特定財源	0	0	0					
従事常勤職員数	0.85	0.85	0.85					
従事非常勤職員数								
概算人件費	5,525	5,525	6,460	0	0	0		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	スポーツを手段とするまちづくりの可能性が見え始めている
		対象の適切性	改善の余地あり	事業の自走性を高める必要がある
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	事業を理解し継続するための組織体が必要
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	数量・質とも達成できた
		効率性	コストの削減	削減の余地あり
総合評価	費用対効果	効果あり	費用に見合う効果が出ている	
	手段の妥当性	妥当	他の手段では事業を推進できない	
	事業の方針	継続	地方再生モデルに認定されており2021年度(明許繰越)まで継続する	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	モデル事業によりスポーツを手段としたハード整備やソフトとしては市民のリテラシー向上を図る事ができた。更に既存ストックを活かせる人材育成等ソフトの取組が伴うか、持続可能な街の仕組みにできるかが重要となってくる。また、街の景観、特に砂沼周辺については美しい景観を守る必要がある。
今後の取組み	モデル事業で整備したハード・ソフトを活用し、モデル事業の一環で策定した「公民連携まちづくり構想砂沼戦略」に基づき、民間投資を呼び込み持続可能なまちづくりを展開する。